

日本が誇る軽トラ×日本が誇るラリーストの合作!

軽トラ&軽バンにおいて、アゲ系カスタムが大流行なのは本誌読者の諸兄ならばご存じのとおり。そんなシーンの流行を知ってか知らずか、日本が誇るラリードライバー 埴郁夫氏が軽トラを製作! 軽トラで“デザートレースを走るなら”を具現化した1台の登場だ!!

●ベースカー/ハイゼットジャンボ(S510)
 ●協力/SUMMIT RACING PROMOTIONS ☎0297-46-2251
 ハードカーゴ ☎079-558-7211 www.h-cargo.com
 横浜ゴム www.y-yokohama.com
 Special Thanks/WORK www.work-wheels.co.jp
 ロケ地協力/ファイナルビースト京丹波店 ☎0771-83-9313

PHOTO/南井浩孝
 TEXT/四馬カ



BUILDER IKUO HANAWA

国内だけでなく、Baja1000、ダカールレース、バイクスピークなど海外のオフロードレースでも広く活躍するレーシングドライバー。サミットレーシングプロモーション代表として、レーシングマシンの設計製作も手がけている。

機能美にこだわった軽トラのカスタマイズブランドとして、広く注目を集めているハードカーゴ。そして、ヨコハマタイヤがワールドワイドに展開する、オフロードタイヤブランドのジオランダー。そんな今をときめく両ブランドのコラボによって生まれたハイゼットジャンボは、ダカールラリーなどで荒野を駆るレーシングカミオンのようにたくましい! 気になる詳細は次のページで触れていくが、ひと目見た瞬間に感じる、ホンモノ、なオーラは、ビルダーを知って納得。デザートレース、ラリーレイド、ヒルクライムなど、レーシングドライバー

として国内外のレースで数々の好成績を収めるだけでなく、自らレーシングマシンの設計製作までこなす埴郁夫氏が、この車両製作を行っていたからだ。「イベントで埴さんと顔を合わせる機会が多く、雑談の中で「ベース車は用意しますから本気の軽トラを好きに作ってください」とお願いしたのがきっかけですね。ちょうど埴さんも軽トラの本格的な改造計画を構想されていたようで、話ほとんどん拍子に進んでいきました」とは、ハードカーゴの田中代表。ちなみに、埴氏がハイゼットジャンボに落とし込もうとしたのは、1000psオーバーのマシンが砂漠を時速220kmで駆け抜けていく、Baja1000のトロフィートラックだ。ただ、最終仕上げとしてハードカーゴのキャリアが追加された姿はダカールラリーのレーシングカミオンに近かったことから、シヨーンームは、ハイゼット・カミオンKTとなっている。

本物を知るからこそ、スキなく醸し出すことができる圧巻のオーラ。細部まで妥協なく仕上げたカッコだけじゃない作り込みが、軽トラリフトアップのカッコ良さをも倍にも引き立てている。

オフロードレースから生まれた本格派の足元チョイス!

足元を固めるタイヤ&ホイールは、ジオランダーM/T G003(195/80R15)&ワーククラッグ Tグラフィック(15x5J IN45)。ビルダーの埴郁夫氏が参戦したBaja1000をはじめとする海外のデザートレースやクロスカントリラリーで得たデータをフィードバックしたアイテムだ。ホイールカラーはマットカーボンカトリムをチョイス。フロントのオーバーフェンダーは他車種用の流用。リアフェンダーはトレーラー用のフェンダーを縦に分割&アーチ形状を加工したもの。マッドフラップはハードカーゴより9月初旬リリース予定の新品(オレンジ)をセット。

- ①ワンオフのミラーベースにマジカルレーシングのGTカーボンミラーをセット。レーシングカミオンやトロフィートラックにはないスポーツムードをプラス。
- ②右サイドのバッテリーは、ハードカーゴ・スキッドグリルを加工したワンオフカバーでガード。フロントからサイドへ同じ質感をあしらって、統一感あるスタイリングを生む。

キラリ輝く妙技に刮目せよ!!



ラリードライバー 埴郁夫が軽トラを本気カスタム!
 ハイゼットベースのミニマル・トロフィートラック??

COVER CAR Special



メッキレスな武骨フェイス!

グリルやフォグ周辺のメッキ加飾はラプターライナーでフラッグアウト。ハードカーゴ・キャリアの先端には、IPFとハードカーゴがコラボしたワークライトを6連インストール。フロントバンパー前方をガードするハードカーゴ・スキッドグリルは、裏側にワンオフのパイプガードを忍ばせてさらに補強済み。エンツンの下側には埴氏によるワンオフガードを組み合わせ、悪路を走る際の防御は万全だ。

HIJET JUMBO
 HIJET-CAMION KT

キラリ輝く妙技に刮目せよ!!

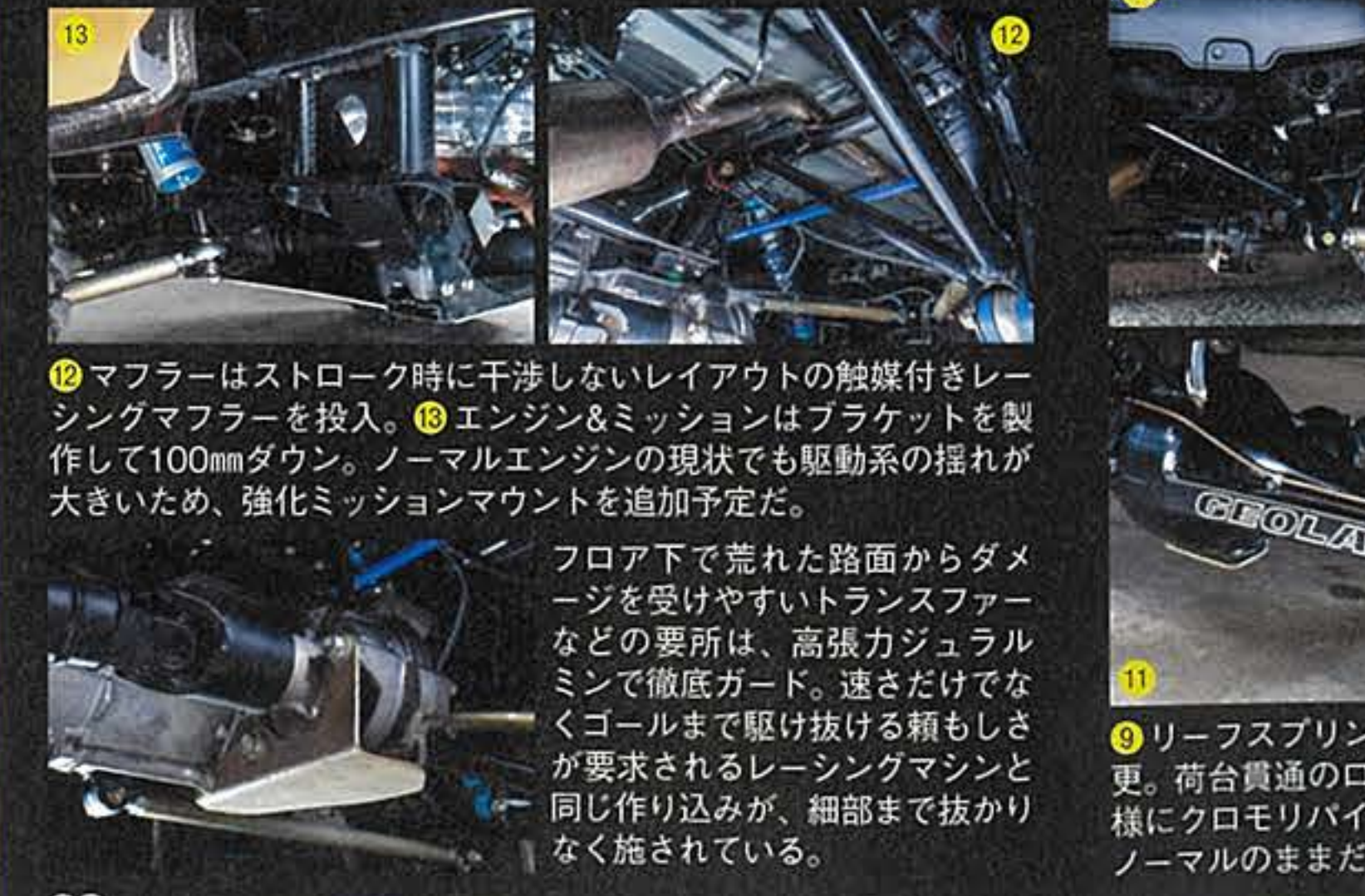
ベッドを貫通する超ロングショック!
キャビンを買くロールケージ!

安全タンクなどが鎮座する
トロフイートラックさながらの作り!



5 キャビン直後の荷台部分にはサイクロン式エアフィルター、そして安全タンク、スベアタイヤをレイアウト。安全タンクを扶むようにしてセットされているのは、リアダンパーの別体式リザーバータンクだ。6 キャビン後方へ貫通して荷台に落とし込んだロールケージはスベアタイヤの少し手前で分岐させ、ダンパー上部などリアのデルタリンクへと接続している。

7 デザートレースで高い信頼性と性能を誇るキングショック、2.5インチモデルを投入。Baja仕様のダブルウィッシュボーン化と合わせ、ストラットのノーマルに対して3倍以上となる200mmオーバーのストロークを与えた。8 アッパー&ロワアームはクロモリパイプを使用したワンオフアームのピロボール接続で、片側100mmワイド設計。ドライブシャフトやタイロッドもワイドトレッドに合わせてロング化されている。



12 マフラーはストローク時に干渉しないレイアウトの触媒付きレーシングマフラーを投入。13 エンジン&ミッションはブラケットを製作して100mmダウン。ノーマルエンジンの現状でも駆動系の揺れが大きいので、強化ミッションマウントを追加予定だ。

フロア下で荒れた路面からダメージを受けやすいトランスファーなどの要所は、高張力ジュラルミンで徹底ガード。速さだけでなくゴールまで駆け抜ける頼もしさが要求されるレーシングマシンと同じ作り込みが、細部まで抜かりなく施されている。



ホイールベースも延長してマス♡



1 高速領域の直進安定性とリアのストローク拡大を果すためにボディ最後部までホイールベースを延長。ハードカーゴの看板商品であるキャリアラックは、高さを市販品よりも低くし、車体との一体感を高めている。2 テールレンスガーニッシュはグリル周りと同様にラプターライナーでペイント。荷台最後部にはハードカーゴがデッキキャビン用にラインアップするガードプラスを流用。マウントをワンオフし、斜めに取り付ける。



3 運転席、助手席ともに、5点式レーシングハーネスとFIA認証モデルとなるレカロ・プロレーサーRMS2600Aを投入。4 FIA規格に準じて45φパイプでワンオフ製作されたロールケージはキャビンのバックパネルを突き抜けて室内へ入り、ダッシュボードを貫通。さらにサイドバーまで張り巡らせた室内を見て、ハードカーゴの田中代表がレース車両でも使用されるFIA規格の素材を使ったハードカーゴ・ルーフネットをガードネットとして流用する。

HIJET JUMBO HIJET-CAMION KT



9 リーフスプリングのままでは十分なストロークが稼ぎ出せないことから、リアはBaja仕様のデルタリンク式へ変更。荷台貫通のロングショックはノーマル比4倍となる300mmオーバーのストロークだ。10 リンク類はフロントと同様にクロモリパイプを使用したワンオフ設計でピロボール接続。11 ダンパーやリンク類が接続されるホーシングはノーマルのままだと強度面に不安が残るため、補強プレートを追加。ジオランダーのロゴもお目立ちだ。

機能美感じるサス構築も見どころ! これぞミニマル本格オフロードレーシング

ハードカーゴのキャリアとカバーテントを装備した結果、荷台からハイパーなどが剥き出しのトロフイートラックから、ダブルラバーなどで活躍するレーシングカミオン風のスタイルに。今はエンジン本体ノーマルだが、ゆくゆくはターボ化も検討しているそう。



さて、製作経緯やビルダーを知ってもらえばわかるように、このハイゼットジャンボは海外レースでも戦えるよう製作されている本格オフロードレーシングマシン。現状はファーストセットアップへ取り組むための暫定仕様で、エンジンやミッションこそノーマルとなっているが、荒れたオフロード路面を捉えるためにストロークが要求される足回りはフルカスタム。純正の足回り構造から作り替えられ、フロントがストラットからBaja仕様のダブルウィッシュボーンへ、リアが車軸式リフからBaja仕様のデルタリンク式へ変更され、高速領域の直進安定性を高めるためのロングホイールベース化も行っている。

また、インテリアもレーシングマシンを彷彿させる作り込みだ。ドアを開けて真っ先に視界へ飛び込んでくるのはヘッドガードを備えたレーシングバケットシート、FIA規格(ラリーレイド)に準じてワンオフ製作されたロールケージ。とくにロールケージはダッシュボード貫通どころかキャビン後方にも貫通させ、後部は荷台へ落とし込むだけでなく、リアの足回りにも接続されていた。

ほかにもオフロード走行時に安定した吸気を実現するBaja仕様のサイクロン式エアフィルター、万が一のクラッシュ時に車両火災発生を抑制する75&安全タンクなど、レーシングマシンに採用される本気アイテムがでんこ盛り。

増氏曰わく「今はやっとな動いたというレベル」だが、これだけの作り込みが施されているれば、停車時やスロー走行でも視線を捉えて離さないオーラが放たれるのも当然といえる。

完成したばかりで今後の活動はイベント含めて未定とのことだが、このハイゼットが巨艦なマシンを相手砂漠を駆け抜ける勇姿をぜひ見てみたい!